

資料 2 事務局提出資料

1. 大分県LSIクラスター形成推進会議
2. 大分県自動車関連企業会
3. 大分コンビナート企業協議会

1. 大分県LSIクラスター形成推進会議

ありたい姿：「シリコンアイランド九州の復活 ～2030年の日本社会（Society5.0）を支える九州・大分」

- (1) だれもが「半導体は社会基盤の主人公である」とその価値を理解している九州
- (2) だれもが「半導体を学ぶ楽しさ」に共感している九州
- (3) 半導体産業で働くことに「誇り」と「生き甲斐」を実感する九州

スローガン：「未来を拓く 産業モデルの創出 ～ 想いをカタチに 共感で広げる ～」

大分県の半導体関連産業の強み

- (1) 他県に先駆けた企業会活動を2005年に開始し、大手と地場企業がともに成長するモデルを創出、全国トップクラスの出荷額を実現
- (2) 自動車の自動運転、EV化が進む中、そのシステムに必要なセンサーやアナログ・パワー半導体などの設計や製造に優位性

人材育成・確保のポイント

- 主な課題 研究開発・設計・デジタル等の高度な専門人材、技術開発を伴う新規事業の推進人材の育成・確保
- 産学官連携 大学・高専との連携を拡充し、半導体関連の専門技術人材を育成（共同研究、連携講座、インターンシップ等）
目指す人材育成を整理し、現在の取組と今後の検討案としてとりまとめ
- 広域的な取組 九州半導体人材育成等コンソーシアムにおいて、九州の産学官が連携する取組と歩調をあわせて推進

SDGsのポイント

- 主な影響 (+) 機器の省エネ対応や電動化に伴い、不可欠な半導体の設計・製造は増加の見込み
(-) 電力使用量が多い産業のため、エネルギーコストの増加、今後の環境規制等の制度変更への対応
(±) ユーザーからカーボンニュートラルの要請もあり、こうした対応は今後も増加の見込み
- 取組 短期的：省エネ型設備更新、再生可能エネルギーの利用促進 長期的：脱炭素化したエネルギーの本格調達

2. 大分県自動車関連企業会

ありたい姿：世界に選ばれ、未来に向け成長を続ける自動車産業拠点

- (1) 世界に選ばれる電動車開発・生産拠点の形成
- (2) C A S Eに対応したサプライヤーの集積
- (3) 工場における脱炭素化の実現

大分県の自動車関連産業の強み

- (1) 北部九州に完成メーカーが集中して立地し、関連企業の集積が継続的に進展
- (2) ダイハツ九州の進出を契機に、大分県内においても関連企業の進出・地場企業の参入が加速

人材育成・確保のポイント

- 主な課題 8割以上の企業で人材不足感が強く、特に製造現場のチームリーダーの育成・確保が必要と認識
人材育成は、社内研修とO J Tが多数で、社外での研修等は少数
- 産学官連携 県立工科短期大学校やダイハツ九州と連携した講座・研修等の拡充、県産業科学技術センター等の技術指導
- 魅力の発信 採用に繋げるために、産業・企業の魅力の見える化と、大学校や高校の学生への情報発信・マッチング機会を検討

S D G sのポイント

- 自動車のE V化 事業への影響を受ける企業が半数を超え、部品開発等の対応、または新分野への移行等を検討
企業会では、新分野への多角化や半導体関連企業との連携等による新ビジネス創出への支援を検討
- カーボンニュートラル対応 8割の企業が取組が必要と考えており、既に半数以上の企業で取組を実施
企業会では、各社におけるC O 2排出量の把握や再生可能エネルギー等の活用等の推進への支援を検討
- 産業としてのP R 自動車産業がS D G sに貢献する魅力ある成長産業であることの普及・啓発

3. 大分コンビナート企業協議会

ありたい姿：「グリーン・コンビナートおおいた」の実現

- (1) 「グリーン水素」「ホワイト水素」「ブルー水素」の総合的利活用に貢献する水素の生産・受入・供給の拠点化
- (2) CO2の分離・回収やプラスチック製品の再利用等を活かしたカーボンリサイクルの拠点化
- (3) 本県に優位性がある地熱・太陽光発電等再生可能エネルギーの利用と、これらを活用した水素製造や蓄電等の新事業展開

大分コンビナートの強み

- (1) コンビナートの中核に石油精製、石油化学、製鉄、LNG火力等、多様な特徴を持つ企業がバランスよく存在（1業種1社）
- (2) 太平洋に開け、海外から船舶のアクセスビリティに優れた良好な港湾（アジア・太平洋州との取引に優位）
- (3) 地域の豊富な再生可能エネルギーと工業用水

人材育成・確保のポイント

- 採用面 地元採用の工業系高校生、本社一括採用の大学生など採用人員は確保
- 育成面 各社の研修体系で対応しているが、デジタル系の人材不足感は共通
協議会では、DX・デジタル分野の外部人材を活用した研修等を検討

SDGsのポイント

- 企業の取組 各社では、将来に向け様々な取組を検討（本社が所管）
製造方法のイノベーションや、コンビナートに留まらない地域の新たなエネルギー供給の拠点化などの将来像を提示
- 企業の連携 連携により生産性や経済性が高まる取組に向け、地域での連携は重要（例：共同貯蔵タンク、パイプライン等の設置）
- 地域の展望 各社・企業間連携の取組のポテンシャル調査や見える化を通じた「ありたい姿」の明確化と共有
地域での「カーボンニュートラルコンビナート」、「カーボンニュートラルポート」の具体化